

海外
医学雑誌エディターに
聞く
Interviews

Gastroenterology 編集長
Daniel K. Podolsky, M.D.
インタビュー



1897年設立のAmerican Gastroenterological Association (AGA:米国消化器病学会)は、米国でもっとも古い専門学会の一つであり、また会員数からみても世界最大級の消化器関連の学会である。同学会が発行するGastroenterologyは、消化器病学におけるもっとも権威ある月刊誌に数えられている。AGAとGastroenterology誌に関するより詳しい情報は、インターネットホームページ、www.gastro.org.で入手可能である。

Podolsky博士はハーバード大学医学部卒業後、マサチューセッツ総合病院で研修を修了し、現在は同病院の内科診療部の副部長およびハーバード大学医学部教授をつとめている。さらに、同博士はNational Institutes of HealthやAGAなど、多数の医学関連機関の理事としても活躍している。また、複数の医学雑誌の編集委員もつとめており、日本のThe Journal of Gastroenterologyもその一つである。

同博士より、Gastroenterologyにおける編集現場の考えなどを含め、投稿に関する貴重なご意見をいただいたので以下に紹介する。

投稿原稿の英語のレベル

IG 英語が母国語でない研究者にとって、英語の雑誌に投稿することはかなり大変なことではないかと思いますが？

Dr. Podolsky 私の経験では、英語の表現が査読に耐えられないほど低いレベルであることはまずないといえます。私が当誌の編集に携わって2年になりますが、英語の表現が十分でないという理由で投稿原稿をリジェクトしたことはありません。また、英語の表現の改善を指示して、著者に原稿を返送するような例もごく少数です。

投稿原稿の英語表現は研究内容を評価するのに十分なレベルであり、レビュアの査読にも十分耐えられるものがほとんどです。レビュアには多角的に原稿を評価してもらうよう依頼します。研究内容が興味を引くものであれば、著者に英語表現の改善を依頼しますが、その際には英語表現改善の要点をいくつかあげておきます。

英語表現の点で明らかに不十分で明確でない原稿を採用する際には、私のような編集者の仕事の一つ増えることとなります。しかし通常の場合、私どもは編集の仕事はしますが、原稿の書き直しまではしません。ですから、いかに内容が科学的に優れた原稿でもその内容同様、英語表現も著者自身に改善していただくこととなります。

投稿原稿の質について

IG 米国以外からの投稿原稿の内容についてはいかがでしょう？

Dr. Podolsky 実際のところ、全投稿原稿に対する採択率は20%程度のものです。この率は米国と米国以外の国との間に大きな差はありませんが、国と国の間に差があることも事実です。たとえば、カナダからの原稿の採択率は米国のそれを上回っています。また、ヨーロッパに関しては国により差があるといえます。日本については、平均採択率をかなり下回っています。

日本からの投稿原稿の採択率が低くなる大きな原因は、その内容が編集方針に合わないということです。例えば、画像診断上の非常に限られた技術的問題について述べた原稿を、Gastroenterologyで採用することはありません。

以前は日本の研究者の原稿では、臨床試験の対照群に問題があったり、盲検でなかったり、あるいは臨床試験実施の施設からの承認を得ていなかったりということが指摘されていました。また、これは全般にいえることですが、研究結果の分析を具体的に数字をあげて説明せずに、文章で説明しようとするきらいがあります。そして、最終的な原稿の評価は研究内容が斬新なものであるかどうかです。研